

たちぎき

人重 思い出とたちぎきで有りたつて

いゝかもしれ厚い

後れたつた たちぎきとかいと申す

たちぎき一

絶おそく 父の弟といふ人か たずねて来た

ふすまこしで 存に木むつかしい話なると

所をすますと 父の弟は証券会社を

経営していて 相場に手を出し莫大のお金が

必要とのこと

父は大人の肩ぐういの金庫を可介 孔采を

お返ししていた

肩にのこつたのは 株はおそろしい

小学校三年生のころだった

命だに 株に手を出していいない

たちぎき二

婦人大学を校検し通知が来た

父と母がお金のけなしをしい

欠が 大目と交付した方が安心だと言つて

いた その後 本格的な合格の通知が来た

そのいうことがあつた感心した
にちぎき三

かつこの笑聲は解談したあとのこと

親戚の世話と母との会話

おべうしに申した方がいよいよ

長い目で見ればそれもそうか

と私の結婚がききつた

布團はとつて感をもた

たふさきし如

そのころ居をけりやういた

大なる声水つつゆへにきこえてく

との娘は頭を便う能事 其の何芸術の世界

中のはとういすりやか 「心」でも「今」

でもするに能事をしていゝの

母の声おびびく

母と会話をしていた所も両親もいない

もうたふさきすゝことも 何んがうた

2046
2/3